

コロナ禍の教育など オンライン対話

コロナ禍で見えてきた学校教育や、これからの子どもたちに見えることを考えるオンライン対話の会「子どもたちをよろしく〜Withコロナ時代を生き抜いていくために〜」が十二日、ビデオ会議アプリ「Zoom（ズーム）」を使って開かれた。

大垣市の市民団体「みんなの未来をつくる会」が主催。貧困や虐待、家庭内暴力、いじめなど子どもたちを取り巻く問題をテーマにした映画「子どもたちをよろしく」の内容を基に、ともに文部科学省の元官僚で、京都芸術大教授の寺脇さんと元次官の前川喜平さんが対談した。

愛知教育大非常勤講師の上井靖さんが進行役を務め、「（コロナ禍の）突然の一斉休校で見えてきたこと」「これからの時代を一人一人が生き抜く力を身に付けるために学校、家庭、地



前川さん

京都芸術大教授 寺脇さん

×

元文科省次官 前川さん



寺脇さん

自分で考える子どもに

域社会で取り組めること」を議論した。

前川さんは、一斉休校により子どもたちの周囲にさまざまな問題が発生していると指摘。学習の遅れやゲーム依存などのほか、「学校や病院からの虐待の通告が激減し、警察や子ども本人からの訴えは増えている」と懸念を示した。

寺脇さんは、休校で本来の子どもたちの生活環境が変わり、「バランスが崩れた状態」になっているとして、長期休暇の短縮などには疑問を投げ掛けた。

これからの教育については、「偉い人」に言われるまま行動する思考停止の状態にならず、「自分の頭で考える子どもを育てる」との必要があるという考えで一致した。

対話の会には、県内外から百人が参加。対話の間には、一般参加者が四〜五人のグループで意見交換する時間もあった。

（服部桃）